

# 海の森化粧品に含まれる油分について

## —一般的なオイルと海の森化粧品に含まれる油分の違い—

### ●油分を含んでいる

海森水を始め、海の森化粧品には油分が含まれています。特に海森水は、化粧水に油分は含まれないというこれまでの常識を超えた化粧水です。また、植物エキスに含まれる界面活性の働きを持つ不飽和脂肪酸((合成)界面活性剤ではありません)の働きにより、水分と油分が自然に馴染んでいるため、合成界面活性剤やアルコールなどの乳化剤(溶剤)を使わずに油分が入っているのも特徴の1つです。

通常、商品に油分が入る場合、成分表記に「～油」と記載されますが、海の森化粧品の場合、含有する植物エキスに元々油分が含まれているため、「～油」という表記はありません。

### ●油分の役割が違う

一般的なクリームやオイルなどに含まれる油分の役割は、皮膚にツヤやなめらかさを与えたり(補給)、水分が逃げたりしないようフタをするなど、主に皮膚表面のケアを目的としています。

皮膚(角質層)にはバリア機能が備わっており、これが壊れることによって、皮膚内部の水分が蒸散したり、外部刺激の影響を受ける。その結果、肌老化の原因「乾燥肌」が作られます。

海の森化粧品には、このバリア機能を強化する油分(不飽和脂肪酸:リノール酸(ビタミンE含む))が含まれています。含有量は微量ですが、バリアを修復する油分のため、この量でもしっかり水分の蒸散を防ぐことができます。微量のため、本当にこれだけで大丈夫?と心配されますが、むしろ微量のため、肌や地肌(肌の自然治癒力)に負担がかかる心配もありません。

多少時間はかかっても、バリア機能を修復し、肌の自然治癒力がしっかり機能するにつれ、使い始めの物足りなさも徐々に解消され、本来のしっとりした素肌・毛髪になっていきます。

### ●多量の油分からなるクリームやオイルは肌の仕組みを壊す

皮膚には、ある程度皮脂が分泌されると、それ以上分泌ないようにストップをかけ、皮脂量を一定に保つ「飽和皮脂量」という仕組みが備わっています。この仕組みがあるおかげで、クリームやオイルに頼らなくても本来のしっとりした素肌や毛髪を保つことができます。しかし、クリームやオイルを継続して使用すると、皮膚は油分がたくさんあると勘違いし、どんどん皮脂を分泌しなくなります。体の筋肉も、使わなければ筋肉量が落ちていくのと同じように、皮脂腺も使わなければその機能は退化していきます(廃用性萎縮)。

アルガンオイルやオリーブオイル、ホホバオイル、スクワラン、馬油など、肌にやさしいイメージのあるこれら自然のオイルは、確かに化学薬剤配合のオイル類に比べて肌(地肌)や毛髪への負担は抑えられますが、いくら自然のものであっても、使用量が多いと肌の仕組みを壊します。そして、多くの方が、自身の使用量の多さに気付かず、肌の仕組みの崩壊に拍車をかけていることにも気付いていません。

### ※皮脂に保湿効果はない

一般的に、皮脂=保湿効果があると捉えられていますが、皮脂(皮脂膜)が皮膚からの水分蒸散を防ぐ割合は、2-3%です。皮膚にツヤやなめらかさを与えたり、外部刺激から保護したり、細菌の増殖を防いだりすることはできても、乾燥肌を防ぐことはできないと言えます。

乾燥対策で重要な油分はセラミドで、角質層中の角質細胞と角質細胞を密着させる働きがあります。皮膚内部から水分が逃げないようにしっかりブロックし、皮膚バリア機能の要となっています(セラミドについての詳細は、別資料「乾燥対策のポイントは角質層の隙間を埋めること(<http://uminomori.com/wp-content/uploads/2016/09/4e7cb2948f26f7986fdff00346a610d0.pdf>)」を参照ください。)